

救急医療におけるドクターヘリの有意義性を学ぶ

府国保診療施設協議会技術職部会研修会



国保診療施設協議会技術職部会研修会は、2月5日（土）、府国保連合会において府国保診療施設より約20名が集まり開催された。

中上部会長の開会挨拶のあと、研究発表として、公立南丹病院の武田薬剤師は「抗がん剤レジメン管理における薬剤師の役割について」、京丹后市立弥栄病院の森野臨床検査技師は「病院と検査室」、また、国民健康保険新大江病院の前田理学療法士は「当院病棟スタッフに対する介助動作指導とその活動報告」、公立南丹病院の小西診療放射線技師は「当院の放射線科におけるフィルムレス化の現状について」と題して日頃の成果等を発表した。

公立豊岡病院但馬救命救急センターの小林誠人センター長が、「医師が救急現場に出向く意義～ドクターヘリの効果は地方にこそあり～」と題して講演を行い、ドクターヘリで現場に医師を派遣することでより高度な処置をより早期に行えるとして、救急医療におけるドクターヘリの有意義性について説明した。



小林誠人センター長